

観音崎公園 鳴く虫マップ



カヤキリ

日本最大のキリギリス類
ジャーという大変大きな声で鳴く。
 鳴き声は500mくらい聞こえる。
 花の広場のススキのところであたまを下にして鳴いている。
 食草はススキの茎。観音崎では花の広場周辺でしか確認されていない。

オナガササキリ

メスの産卵管が大変長いのでこの名がある。
 花の広場のチカラシバ群落に生息する。
 触角も大変長く**シュリシュリ**と短く鳴く。
 花の広場には近縁種のホシササキリ・ウスイロササキリが多産するが、オナガササキリは大型なので簡単に区別がつく。

ハヤシノウマオイ

別名スイッチョと呼ばれる。
 以前は1種だったが、**せわしなくジッチョ・ジッチョと鳴くハタケノウマオイ**と**ゆっくりスーイッチョ**と鳴く**本種**とに分けられた。
 花の広場から防衛大学側の園路で夜は普通に鳴いている。

スズムシ

鳴く虫として江戸時代より庶民に親しまれている。
 野生スズムシはリーン・リーンとは聞こえないで**フィリーン**と**風**のような音色で鳴くのでおよそスズムシとは思えない。
 観音崎公園と防衛大学が横須賀のスズムシの最後の砦。

マツムシ

鳴く虫の代表種。**チンチロリン**と**金属的な音色**で鳴く。
 横須賀横須賀の野生スズムシの最後の砦同様、マツムシも激減して花の広場にわずかの個体が発生する

クマスズムシ

スズムシより小型で体の作りがスズムシのように華奢ではなく頑丈に出来ている。**低い音色から始まって徐々に高音になると鳴きやむ**。この金属的な響きの魅力は、通人に好まれている。
 キク科の枯れた茎に大きな穴を開け、髄の中に産卵する。

ヒロバネカント

リリリリー・リとカントのように連続して鳴くことなく一鳴きごとに区切って鳴く。
 神奈川県では絶滅したとされていたが観音崎自然博物館のボランティア瀬長剛さんが25年ぶりに生存を確認した。それ以後周辺の人家にも広がり観音崎では普通種となっている。

クチキコオロギ

観音崎では1年中幼虫・成虫・卵を確認できる豊かな森の林床の腐葉土の中や朽木を棲みかしている。そこは冬でも暖かく・正月でも**フギー**と鳴いている。
 夜の公園を歩くとフギーと鳴き合っている音色を聞くことができる。日本最大のコオロギでオスの翅は短く体長の3分の1しかない。

モリオカメコオロギ

観音崎にはオカメコオロギが3種いる。
 平地の草はらにいるハラオカメコオロギ・やや湿地の草はらにいるタンボオカメコオロギ・照葉樹林に生息するモリオカメコオロギである。
 鳴き声はハラオカメコオロギよりも**小さくリリー**と聞こえる。森のロッジ側の園路に多産する。

公園の見所紹介や案内をしています。